

平成30年度学校自己評価システムシート (県立和光高等学校)

目指す学校像 **創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校**

重 点 目 標	1 意欲を育て、ひとりひとりの力をしっかりと伸ばす学習指導 2 ルールと時間を守り、思いやる心と社会性を養う生活指導 3 自分自身を正しく理解させ、自尊・自信を築く進路指導 4 協力と汗を流すことを尊ぶ、活気ある学校行事と部活動の充実及び地域への貢献
---------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	12名

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価					
年 度 目 標		年 度 評 価 (2月1日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・生活習慣や基礎学力に課題を持つ生徒が多い。 ・入学段階では学習習慣が身に付いていなかったり、勉強への興味・関心が低い生徒が多数見られる。 ・一方で、高校での生活が進むにつれて学習への興味を持ち、意欲的に取り組む生徒が増えている。 ・転退学者は連続して減少傾向にある。 【課題】 ・高校入学以前の段階で何らかのつまづきを抱える生徒が多い。 ・個々の生徒の状況や学力の差が大きく、授業の進度・難度の設定に配慮を要する。 ・意欲の喚起につながる良好な学習経験が少ない生徒が多く、特に苦手意識の高い科目において、生徒の興味を高める工夫が必要である。 ・学習の準備や学ぶ姿勢、周囲の環境の整備など、基本的な学習への取り組み方についての指導が必要な生徒がいる。	授業研究の推進(教員個々の授業力の向上)	・相互の授業見学を推進し、意見交換を行い、授業スキルの向上に向けた校内の共助を確立する。 ・教員対象の研修会等によって、指導についての共通理解を深め、授業力向上を図る。 ・授業評価アンケート、授業公開でのアンケートを実施し、教員個々の授業力の伸長を図る。	・職員間相互の授業見学状況 ・職員個々のスキルアップ ・授業評価等アンケートの結果	【授業研究を推進し教員個々の授業力を向上】 ・授業見学月間を活用し、教員が相互に授業を見学して研究授業・協議(6名)を行った。 ・先進校視察を実施して授業改善に活かした。新教育課程の情報提供を行い、次年度の「総合的な探究の時間」実施に向けて準備中。 ・授業評価アンケートでは、全体の平均として約87%以上の生徒から肯定的な回答を得ており、実態に応じた指導を行っている」と評価する。	A	引き続き生徒の学習意欲の向上が課題である。また、新教育課程の編成に向けた検討と「総合的な探究の時間」や各教科での探究的活動の実施に向けた授業力の向上及びそのための授業参観・研修等の充実が一層必要である。 来年度から実施する2年間(1・2年次)の少人数学級編成等によるきめ細かな学習指導をととして、学習意欲の向上を図る。
		生徒の学習診断等による実態把握(一人一人の力を確実に伸ばせたか)	・1学年における少人数学級編成により、きめ細かな指導を継続する。 ・二者面談・三者面談等を通じ生徒理解に努め、学習と生活の両面から一人一人に応じた指導を行う。 ・授業巡回の実施やチャイム着席などを徹底し、授業に向かう姿勢を身に付けさせるための、生活指導と一体化した学習指導の在り方を整備する。 ・学習サポーター、多文化共生推進員、特別支援巡回指導員等を活用する。 ・学校設定科目「ベーシック」を通して基礎学力と学習方法を身に付けさせる。 ・興味をもとに基礎からの学習をすすめることで「わかる楽しさ」を教える。 ・補習や課題、自習室の設定等、学習に取り組む環境を整えることで、生徒の学習意欲の向上と、欠点保有者の減少を図る。 ・授業評価、学校評価等のアンケートを実施し、実態を把握・分析する。また、高校入学以後の学習状況の変化を把握するための研修会を実施する。	・学校評価等アンケートの結果 ・優良者数と欠点者数の変化 ・実力診断テストなどによる学力の把握と分析	【生徒の学力を把握し、個に応じた授業を実践】 ・アンケートの結果は学校評価、授業評価ともに生徒・保護者から肯定的な回答を得ている。特に少人数学級への評価が高い。(生徒88.9%、保護者97.2%) ・学年、教科の実態に応じて補習、自習室の設定などを行った。2学期末には全生徒の3割が成績優良者、欠点者数、転退学者数は減少傾向で、出席率は大きく向上した。 ・ベーシックの事前事後テストで学力を把握した。事後テストでは学力の伸長が見られる。また、基礎力診断テストの結果を用い、分析会を実施して課題を共有した。	B	学校評価・授業評価アンケートの結果から、学習指導が生徒の実態に即している」と捉えている。 入学生徒の実態は年度により異なるが、出席状況の改善、転退学者の減少、欠点保有者数の減少の傾向を維持・向上するよう、生活指導と一体化した学習指導の実践を継続して進める。 学習の中で探究活動を行うためには、生徒の実態から見て、基礎学力の習得に対して今までと同様に手厚い指導が必要と考える。ベーシックの有効な活用を継続する。
2	【現状】 ・基本的生活習慣の定着に課題を抱える生徒が一定数在籍している。 ・他者と互恵的な関係を築くソーシャルスキルが不十分な生徒が一定数在籍している。 ・場に応じた整容、態度をとることに課題を抱える生徒が一定数在籍している。 【課題】 ・整容指導を定着する必要がある。 ・自己を律する姿勢・態度の醸成が必要である。 ・家庭との連携を強化する必要がある。	遅刻数・欠席数の減少 制服の着こなし状況	・遅刻指導を継続発展させ、遅刻0になるよう指導の在り方を改善する。 ・5分前行動を心がけ、チャイム着席を徹底させる。 ・授業開始時に整容指導を徹底し、授業に真剣に臨む姿勢を確立する。 ・学年を横断した統一基準による指導を定着させる。	・遅刻数・欠席数の変化 ・制服の着こなし ・ボランティア活動の充実	【生徒の遅刻数、欠席数は減少傾向、制服の着こなしは改善】 ・遅刻を繰り返す生徒への指導を徹底して行った。遅刻者数は減少傾向にある。 (H29: 延べ2,293回⇒H30: 延べ2,065回) ・ネクタイの着用状況は大幅に改善し、ピアスをしてくる生徒は減少した。女子の化粧に対する指導は定着されつつある。 ・ボランティアに積極的に参加する生徒が増え、活動回数が増えた。	B	整容の乱れや遅刻の根本的な解決には、生活習慣の改善が必要である。保護者の協力が不可欠であり、保護者と連携した指導体制の在り方を検討する。
		生徒会活動を通じた自主性の喚起・育成	・生徒会活動・委員会活動の活性化を図る。 ・体育祭や文化祭などの学校行事の充実を図り、運営方法等の見直しを行うことにより広く地域に公開する。 ・教員主導から生徒主導の行事となるよう生徒会活動を充実発展させる。	・年間委員会開催回数の増加 ・行事事後アンケートの満足度・達成感の上昇	【自主的な生徒会活動への転換】 ・教員が支援する場面が少なくなり、生徒自身による自発的活動が見られるようになってきた。生徒会(生徒)の提案による文化祭のチケット制の廃止により来場者が増加した。 (H29: 451名⇒H30: 597名) ・学校評価アンケートでは、学校行事に対する肯定的な回答が生徒、保護者ともに80%を超え(生徒80.4%、保護者80.7%)、満足度が高く達成感を味わっていると評価する。	A	体育祭や文化祭などの学校行事を更に充実・発展させることが課題である。 生徒会本部役員がリーダーシップを発揮し、多くの生徒が主体的に学校行事へ参加できるように工夫する。各種行事の課題を生徒会本部役員に検証させ、多くの生徒が活躍できる場を提供する。
3	【現状】 ・体系的な進路指導を計画・実施しているが、生徒の進路希望が多岐にわたり、実態も多様である。 ・生徒の多くは進路に向けての活動には意欲的であるが、進路意識を持つまでに時間のかかる生徒がいる。 【課題】 ・早い段階から具体的な進路目標を見据えさせるための段階的なキャリア教育の充実が必要である。 ・学力面での自信の無さが消極的な選択につながり、進路に向けての活動が遅れる生徒がいる。	生徒の学校生活への取り組み状況	・様々な角度から適切なアドバイスと励ましの言葉を与え、前向きに向き合えるための確かな自信を育む。 ・面談により適切な目標を定めさせ、達成に向けて努力を継続させる。 ・日常的な学習指導、生活指導により、学力・生活規範を身に付けさせる。 ・資格取得を奨励し、参加への呼びかけや補習を実施する。	・学校生活に取り組む姿勢 ・学校評価アンケート(進路)での満足度	【生徒の学校生活への取組状況が改善】 ・進路指導の4つの柱、「あいさつ」「身だしなみ」「言葉づかい」「字を丁寧に書く」の大切さを日々の進路指導の場で伝えられた。 ・学校評価アンケートからは保護者・生徒とも進路指導に対し肯定的な評価を得ることができた。(生徒84.3%、保護者85.0%)	A	進路指導部と生徒指導部との連携により、日常の生活の延長線上に4つの柱があることを理解させることができた。基礎学力の向上や資格取得そして学校行事や部活動に積極的に取り組む姿勢をさらに確立させる。
		早い段階での希望進路決定者の増加	・段階的な進路に係る計画を策定し、各学年ごとで実行する。 ・「自分発見!高校生感動体験プログラム(就労体験)」を活用し、やりがい・生きがいを見出し適切な職業観を育成する。 ・3学年を通した基礎学力テストを実施し、分析会を通し実態の把握をする。 ・論文や面接練習などに、すべての教員が携わる体系的な指導を実施する。	・進路結果 ・早い段階での進路意識の醸成	【学年ごとに段階的な進路指導を実施】 ・進路結果は、希望進路を変更する者が多数出たが、個別に丁寧に対応し、ほぼ例年並みに決定している。 ・1年生では、就労体験に加えて講演会や体験授業を実施し、進路に対する関心を高めた。 ・2年生では、分野別説明会、卒業生を囲む会などを実施し、より具体的な進路先を示した。	B	夏季休業中の3年生に対する進路指導では、全職員・PTAの協力を得ながら指導に当たっている。第一希望を実現させるために、本校独自の「進路のしおり」を活用し、進路意識を高めながら実践的な指導を行うことにより、生徒の自立を促すことが課題である。
4	【現状】 ・部活動加入率が停滞気味で活気にかける。 ・部活に対して消極的な考えを持っている生徒が一定数に在籍している。 ・地域との連携がとれつつある。 【課題】 ・生徒・職員とも部活動に対する意欲と向上心の醸成が必要である。 ・部活動と行事の活性化に向けて新しい取り組みを創設する必要がある。 ・地域と連携した開かれた学校づくりの推進が必要である。	部活動加入率の上昇、及び部活動の活性化	・部活動への参加を奨励し、日常の部活動を活性化する。 ・部活動の様子をホームページ等で紹介し、学校説明会や式典等の行事において学校の代表として活躍する気概を養う。 ・備品購入費等を充実させることにより部活動を行うことができる環境を整備する。	・部活動加入率 ・ホームページの「部活動」の更新回数の上昇	【部活動加入率はほぼ横ばいも活性化傾向】 ・部活動加入率に大きな変化は見られなかったが、大会等に参加する部活動が増えた。 ・ホームページの部活動の紹介・活動報告等の充実が見られた。更新回数は、昨年とほぼ同数であった。	B	部活動加入率の増加については、新入生への働きかけが課題である。また、部活動への参加を一層増やし、活性化に取り組む必要がある。 生徒会が中心となり新入生へのアプローチを検討していく。
		国際理解教育の更なる充実	・和光市の姉妹都市であるロングビュー市への生徒派遣とその報告を通じて、国際理解教育の更なる充実を図る。	・国際理解教育の浸透	【ロングビュー市に生徒を派遣し、生徒の国際理解が促進】 ・9名の海外派遣とその発表をとおして全生徒の海外への関心が高まった。 ・和光市民文化祭等に交流の成果を展示し、市民の方々に交流の様子を伝えた。	A	来年度はロングビューから市民や生徒が来日予定である。生徒が日本の生活や文化をしっかりと伝えることができるように講習会や研修会を実施し、異文化交流を進める。
		地域への貢献とボランティアマインドの醸成	・和光市ボランティアセンター等主催のボランティア活動に参加し地域の方々と交流を深める。 ・近隣の小中学校や公共施設等、地域との連携を強化し、社会への貢献活動の充実を図る。	・ボランティアへの参加状況	【ボランティアマインドを醸成し地域に貢献】 ・生徒会と生物部が主体となり、「午王山の会」と協力して午王山の清掃活動を実施。継続した取組が認められ、「埼玉教育ふれあい賞」を受賞した。 ・和光特別支援学校との交流会やさいたま国際マラソン、和光市の各種行事など、多くのボランティアに参加した。	A	全生徒へのボランティア意識の拡大が課題である。ボランティアの活動回数は多いが、たくさんの方が参加できるように工夫・改善することが課題である。また、諸活動の報告を保護者、地域等に発信できる体制を整え、魅力ある学校づくりの一助とする。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 平成31年2月6日(水)
学校関係者からの意見・要望・評価等
(学習指導について) ・先生方が相互に授業見学して、自らの授業に活かしている。一層授業力向上に取り組むことを期待する。 ・少人数学級編成やベーシックなど、学校の実態に即しており、学力の向上につながっている。また、少人数学級編成の成果が生徒と保護者のアンケートの結果から伺える。今後も継続していただきたい。 ・中学校にも和光高校のベーシックや少人数学級編成に期待をしている生徒が多い。少人数学級編成やベーシックは和光高校の強みである。もっとアピールし、地域や中学生への周知をした方がよい。 ・学習につまずきのある生徒に丁寧に指導いただけることを評価するとともに感謝する。
(生活指導について) ・継続した指導の結果、遅刻数が減少しており素晴らしい。今後も継続していただきたい。 ・化粧など整容関係が気になる時がある。さらなる指導が必要と感じる。 ・清掃の行き届いていない教室等があった。清掃活動に力を入れていただきたい。 ・ボランティアに参加する生徒が増えている。一層の活性化を期待する。
(生徒会活動について) ・生徒が自主的に活動しているのがよい。 ・文化祭にPTA後援会も参加させていただいている。今後もPTA後援会として協力を続けたい。 ・生徒会誌の若樹にある通学路の危険区域を生徒会が発信しているのがよい。通学時の交通安全に一層配慮してもらいたい。
(進路指導について) ・生徒指導部と連携した進路指導を評価する。「あいさつ」「みだしなみ」は特に大事である。 ・PTA後援会としても支援する。面接指導等、一層協力していきたい。
(就労体験について) ・1年生が就労体験をしているところを見かけた。身体が不自由な方が介添え等をよくやっていた。社会を編成する一員としての自覚を促している。 ・中学校と異なる和光高校のような5日間という長い期間の活動は良い体験である。
(部活動について) ・少ない部員数であるが、生徒たちは熱心に活動している。 ・かつての華々しい活躍の音が聞こえてこないのが寂しいが、1つ1つ成果を上げるように頑張ってもらいたい。 (国際理解教育について) ・後援会の支援をいただき、生徒9名をロングビュー市に派遣することができた。後援会に感謝する。地域からも評価いただいている活動であり、全校生徒に成果を紹介し、国際理解教育をさらに推進していくことを期待する。
(地域貢献及びボランティアについて) ・地域貢献に対して生徒の活動について感謝する。午王山を国の史跡として申請している。指定された際には和光高校からもアイデアをもらいながら整備していきたい。 ・和光市ロードレース大会、鍋グランプリなどの各種行事にお手伝いをいただいている。和光市民としても感謝する。今後もボランティアや福祉活動に関心を持つ生徒を育成してもらいたい。